

ワクチン名		0歳	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	1歳1か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	(満年齢)	
不活化ワクチン B型肝炎 (母子感染予防を除く)	定期		①	②																									
			0歳のうちに3回接種が必要(3回目と2回目は4-5ヶ月の間隔をあける)																										
			1歳以上でも未接種の場合は、できるだけ早く受けるのがおすすめ(※任意接種)																										
生ワクチン ロタウイルス	任意		①	②	③																								
			遅くとも生後14週6日までに接種開始。																										
			1価ワクチン/5価ワクチンがあり、それぞれ必要回数を受ける。																										
不活化ワクチン ヒブ	定期		①	②	③																								
			必要接種回数を早期に完了するには同時接種で受けることが重要(ロタウイルス・ヒブ・小児用肺炎球菌・四種混合)																										
不活化ワクチン 小児用肺炎球菌	定期		①	②	③																								
不活化ワクチン 四種混合(DPT-IPV) 三種混合・ポリオ	定期		①	②	③																								
生ワクチン BCG	定期																												
生ワクチン MR (麻しん風しん混合)	定期																												
			集団接種の地域では、同時接種でうけられません。																										
生ワクチン 水疱 (みずぼうそう)	定期																												
生ワクチン おたふくかぜ	任意																												
不活化ワクチン 日本脳炎	定期																												
不活化ワクチン インフルエンザ	任意																												
不活化ワクチン A型肝炎	任意																												
不活化ワクチン HPV (ヒトパピローマウイルス)	定期																												
不活化ワクチン 髄膜炎	任意																												

不活化ワクチン 不活化ワクチン **定期** 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担) **定期** 定期予防接種の対象年齢 **←○→** おすすめ接種時期(数字は接種回数) **←○→** 添付文書に記載のないおすすめ接種時期(※) 添付文書には記載はないが、接種を推奨

生ワクチン 生ワクチン **任意** 多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。 **任意** 任意接種の接種できる年齢 ●次に他の種類のワクチンが接種できるのは、不活化ワクチン接種後1週間後の同じ曜日、生ワクチン接種後は4週間後の同じ曜日からです。

同時接種：同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。(参考：「NPO法人 VPD を知って、こどもを守ろうの会」2020年4月版予防接種スケジュール表)